

ひらく

未来をひらく、心をひらく

特集

子ども食堂ってどんなところ？

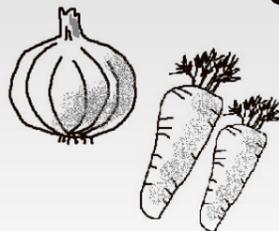
2024.10

55



特集

こども食堂って どんなところ？



『ひらく』実行委員が行く



広報誌『ひらく』は男女共同参画社会をめざしてつくられています。それは、社会を構成する人たちが、もちろんこどもたちも・・・誰もが大切にされる社会です。

8年ほど前から小平でも「こども食堂って知ってる?」「こども食堂ができたらしい」「こどもだけで行っても安心して利用できる食堂だよ」「私も手伝っている。デザート係」という話を聞くようになりました。

どんなところだろう? こども食堂はこどもが大切にされる場所ではないか。私たち、『ひらく』実行委員はそう考え、取材に出かけました。

地域のこどもたちのための 温かい居場所 フレンド食堂 ガーデンys



出来たてミートソース

8月の暑いある日、小川公民館で開催しているこども食堂「フレンド食堂 ガーデンys」を訪ねました。コロナ禍も落ち着いた約1年ほど前から、地域のこどもたちに安心して過ごせる場所を提供したいと、飲食店

を営んでいたシェフが始めた食堂です。通常は月1回、18時からですが、夏休みのこの日、12時からの開催に集まったのは、16人(男子5人、女子11人)のこどもたち。食品ロスをなくすために、事前に参加連絡をしてもらいます。お弁当形式での運営方法もある中で、ここではこどもたちが「ロ」の字に机を並べ、みんなで会話をしながら楽しく食事をします。シェフが腕を振るうこの日のメ

ニューは、サラダ、ピザ、ミートソースパゲティ、デザート(手作りぶどうゼリー)。12時までは、学生スタッフといるんなレクリエーションをしながら準備の時間を過ごします。食事はお代わり自由で出来立てのミートソースが美味しそうでした。ピザもその場で調理。トッピングが選べて、ツナやベーコン、タマゴ、チーズなど、こどもたちの手が勢いよく挙がります。賑やかで楽しそうな様子が、こどもも普段どおりに過ごせているように感じます。

「食事をするだけでなく、こどもたちが安心して過ごせる場所、遊ぶ場、集まりの場、を提供することを何より大切にしている」と男性シェフは話します。始めた頃はこどもも5〜6人でしたが、地域で声掛けして、今は20人程の会員がいるそうです。保護者とも連絡を密に取り、アレルギーなども事前に聞き取っているそう。こども一人ひとりに目配り気配りするからこそその会員制で、築いた信頼関係によって、保護者にとっても安心してこどもを預けられる場所になっている、と思えました。

スタッフとしてサポートするのは、保育などを学ぶ白梅学園大学の学生。毎回3人以上の有志が参加して

おきまりメニューは いつもカレー ひまわり子ども食堂

こども食堂を始めたかと思っただけを代表の根本さんに伺いました。「週れば2011年の東日本大震災を目の当たりにしたことで、共に生きると

いう喜び、豊かさに気付いたことでしょうか。その後、こども食堂の話聞く機会があり興味を持ち始めました。こどもという言葉がついていますが、こどもたちの補食のためだけでなく、貧困家庭、ひとり親家庭、独居高齢者という人々がコミュニケーションを求めてやってくる意味合いも大きいのです。」

こども食堂が具体的に始動したのは新型コロナウイルス感染症が5類になった2023年の5月。清掃ボランティアで知り合った人たちに声を掛けをして話し合い、「皆で集まったり、会食したりもできるのではないか」と判断したからだそうです。



今回2024年8月17日で16回目の開催。中心的な運営スタッフは4人でボランティアスタッフも含めると総勢25人。そのうちの都合が付く人が10数人参加して実施しています。今後は、小平市での運営をモデルとしてさらに発展させた常設店を作り、それを基本に練馬区、目黒区、三鷹市での開催を目指しているそうです。

小平市では食事数は60食分。30〜40人が来ておかわりOKという考えでこの食数です。メイン料理は「カレー」と決めていて、その時々でカレーの種類を変え副菜やデザートもあります。メニュー表には本日の食材が細かく書かれておりアレルギー対策への配慮を感じました。地元企業からのお菓子の提供もあるのでお土産も渡しています。調理室に隣接した食堂でわいわい談笑しながらの会食形式で食事自体は12時開始で13時半には終わっている感じですが、その後も終了の15時までは自由時間を楽しんでいる様子です。

男性スタッフは3人でやや少ない印象ですが、力仕事があるわけではないので、調理、配膳など区別なく仕事をこなしていて大きな問題はないうようです。大学生のボランティア

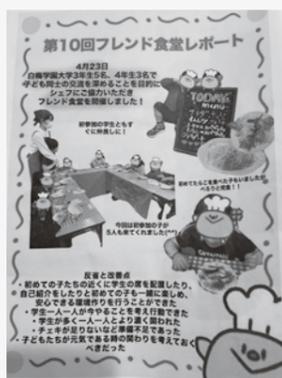


に勉強を教えてもらう子もいて、様々な年齢、性別、立場の人が関わる意味も感じました。こどもが他者と関わることで、こどもから一時的にでも解放され自由な時間が持てたと感じる親もいるそうです。また、誰がどのような問題を抱えているのか分かりづらいこともありますが、地域の人のつながりで救われることもあると思います。「地域交流拠点」、「こどもの居場所」としての役割も担っていると感じました。

立ち上げ当初は、近隣のこども食堂の方にチラシの配布をお願いしたりして周知に苦慮したそうですが、今では定着して楽しみに来てくれる子も多いようです。あえてSNSの利用はせずに周辺地域の方に利用してもらうことは大切なのかもしれません。



食堂から見える調理室



フレンド食堂レポート

「こども食堂を運営することが、自分自身や学生スタッフ、保護者など、関わる人それぞれにとって、大切な学びの場となっている」と語るシェフの言葉が、自身の学びになりました。「フレンド食堂 ガーデンys」は、ここに集まる人たちの大切な居場所になっている、と実感しました。

幼いころの幸せな時間 小平ACTあつたか小平 ～子ども食堂&寺子屋

あつたか小平の名前には「ここにもあつたか!」と「あつたかい」の2つの意味があります。代表の生井博美子さんは、小平のアビリティクラブたすけあい(*1)の会員達やスクー



庭で オープンカフェ

始めたころは4か所だった子ども食堂は今では市内20か所に増え、社会福祉協議会を中心に連絡会が開かれています。「幼いころの幸せな時間(あつたか小平の垣根に咲くモッコウバラの花言葉)を大切にしたい」とスタッフの皆さんは

ルソーシャルワーカー(*2)の協力や、公民館活動で知り合った人たち、ご近所の体操クラブの人たち、自治会のメンバーに呼びかけて2022年4月から子ども食堂&寺子屋を始めました。初期費用は小平市社会福祉協議会の推薦で助成金を紹介され、大変助かったということでした。

スタッフは20人。公民館の「土曜男のクッキング」という団体から平均4〜5人が参加します。「料理は



あつたか小平のリーフレット

弁当は大人300円、子ども100円で販売します。献立は月1回の役員会(代表の生井さん他6人)で案出しをし、月1回のスタッフ運営会議で決定します。食材は農家の協力を得て新鮮な野菜を頂いたり、社会福祉協議会からの寄付品もあります。オープンカフェのケーキはご近所のケーキ屋さんから切れ端を頂いて作るので大好評とのこと。

活動を続けています。また、コンサートや映画会を年1回開き、地域の人たちとの交流も大切にしています。副代表岩本博子さんの「空き室を提供して下さる人がいたので子ども食堂が始められたんです」、鈴木さんの「家族以外の人と話し合える貴重な時間ですよ」、生井さんの「子ども食堂の日は、朝9時から夕方17時まで若男女多世代・大勢の人達が入り、もう目まぐるしいけれど嬉しい」という発言が耳に残りました。

※インタビューと「あつたか通信」を基に原稿を書きました。

*1 NPO法人ACT(ACTはアビリティクラブたすけあいの略)で1992年に東京エリアに設立。子育て、家事、介護を大切な仕事として認め合い、地域でたすけあいの仕組みづくりをしている団体。
*2 児童生徒の置かれた環境へ働きかけ、課題解決を図っていく福祉の専門職。あつたか小平の事業をする際にも学校にも紹介してもらった。

地域に笑顔を届ける こども食堂 スマイル食堂

スマイル食堂は、小平福祉園が施設環境を地域に提供し、地域の皆さんが運営に携わっている「こども食堂」です。

こども食堂を立ち上げたのは、「地域のこどもたちが安心して楽しく過ごせる居場所をつくりたい」という、関係者の熱い思いからでした。小平市社会福祉協議会、小平第六中学校学校経営協議会、小平福祉園、地区民生委員等々の連携の下、2018年から、月1回の昼食提供がはじまったということ

です。当初は、会食形式で、中学生をはじめ、近隣の親子、高齢者、福祉園利用者など、地域の様々な方々が利



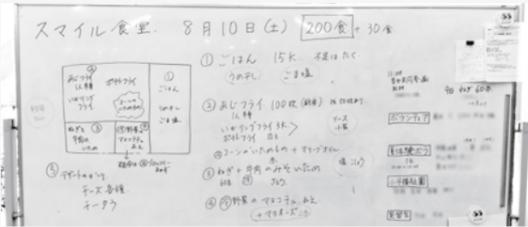
できあがったお弁当

用していました。言わば、地域の誰でも食堂です。コロナ禍では、4か月間の休止はありましたが、活動は継続し、現在は月2回、土曜日の12時から、福祉園の玄関前で、必要としている皆さんに手作りのお弁当を配布する、という形で実施しています。大人は300円。高校生以下は無料です。

毎回、200食以上を用意していますが、準備、調理、片付け等々を担っているスタッフは、地域のボランティアの方々です。取材当日は、夏の体験ボランティアとして参加している中高生5人を含め、大学生、民生委員の方々、福祉園の方々等、合わせて16人が携わっていらっしゃいました。内、男性は3人でした。

朝8時半、準備開始。それまでに、リーダーの方が、その日のボランティアの数を把握し、それを材料、作り方、容器への詰め方の手順などを書き記しておきます。それを見て、全員が作業の流れ全体を確認しながら動いているので、スムーズにお弁当が出来上がっていきま

う柔軟な働き方をなさっています。皆さん、和気あいあいと楽しく組んでいらっしやいました。食材の多くは、農家からのご寄付や、フードバンクからいただくのでまかなっています。よって、毎回その時に手元にある食材をもとに、工夫して献立を考えているとのことでした。



ボードに書かれた今日の手順

取材日の2024年8月10日には、12時から利用者が集まりはじめ、あつという間に20人ほどの行列ができました。その場で食事をした方のためには、玄関前の屋根の下に、椅子・テーブルも用意されています。資金不足に悩みつつも、地域に住む様々な方々が、食を通じて、温かいつながりをつくっていくことができれば、との思いで、これからも活動を続けていかれるようです。

小平市社会福祉協議会 からのひびくこ

「こども食堂」だれでも食堂」とは、こどもが一人でも安心して行くことができる地域の食堂として、地域のボランティアや福祉施設が自主的に取り組まれている活動で、本会が把握するだけでも市内で20か所となっています。

記事にもあるように、食の提供のみならず学習の支援や世代間の交流など老若男女問わず、地域の皆さんが気軽に立ち寄れる居場所ともなっています。

本会ではこのような取組みを支援するために、連絡会の開催や助成金等各種の情報提供、ボランティア紹介、市民の皆さんからの食材提供の相談・調整等を行っています。興味のある方は、こだいら生活相談支援センター(電話042-3349-0151)までご連絡ください。



ひろくのまとめ



今回の取材を通して、改めて実感したことは、「誰もが大切にされる社会」が私たちにとても大切だということです。そしてそれを実現しようとする方々が、陰でさまざまな努力をされていることに気づかされました。こども食堂を訪れる人、運営に携わる人、ボランティアで協力する人、いろいろな立場の人たちが関わることで、「生きづらさを感じる社会」をつくらないことにつながるでしょう。資金面での苦勞や運営上の困難も多々ある中、前に進むよう努力している姿に勇気をもらいました。

リカレント教育

リカレント教育とは、就職してからも、生涯にわたって教育と他の諸活動（労働、余暇など）を交互に行うといった概念である。昭和45（1970）年に経済協力開発機構（OECD）が公式に採用し、昭和48（1973）年に『リカレント教育-生涯学習のための戦略-』報告書が公表されたことで国際的に広く認知された。

近年、日本でも自然・社会環境が激変する中で、リカレント教育が注目されているのは周知のとおりであるが、令和4（2022）年には文部科学省から、第11期中央教育審議会生涯教育分科会における「議論の整理」が公表されている。この「議論の整理」では、リカレント教育は、①キャリアチェンジを伴わずに現在の職務を遂行する上で求められる能力・スキルを追加的に身に付けること（アップスキリング）や、②現在の職務の延長線上では

身に付けることが困難な時代のニーズに即した能力・スキルを身に付けること（リスキリング）の双方を含むとともに、③職業とは直接的には結び付かない技術や教養等に関する学び直しも含む広義の意味で使用する、としている。

政府においてはリカレント教育を推進していくために、文部科学省・厚生労働省・経済産業省等が連携し様々な支援を行っている。文部科学省が作成している「マナパス」（社会人の学びを応援するポータルサイト）には、約5000の大学・専門学校等の条件別講座検索、自分の学習モデルを見つける修了生インタビュー、費用支援や職種別学び直しを紹介する特集ページ等、「いつでも・どこでも・誰でも」学べる社会人の学びの情報が幅広くまとめられている。

（参考：平成30年度版 情報通信白書、リカレント教育の推進に関する文部科学省の取組について（令和6（2024）年1月））



マナパス▲

行ってみました

市長と話しませんか タウンミーティング

令和6（2024）年7月29日（月）
新5000円札の肖像として採用された津田梅子さん。小平市津田町に所在する津田塾大学創立者です。その津田塾大学で、歴史ある建物の外観や、津田梅子さんの墓、津田塾大学図書館内にある津田梅子資料室を見学しました。

また、この日は「女性活躍や男女共同参画」をテーマに、市民と小林市長の話し合いもありました。広報紙『ひろく』の編集委員もテーマに関心があり参加しました。

現市長は女性ということも、「女性活躍や男女共同参画には特に力を入れている」とのことでした。参加した市民が、教育問題や介護問題、労働問題などについて小林市長に質問し、それに対して市長が回答しました。「女性活躍や男女共同参画」と密接につながっている質問もあり、興味深いひとときでした。

小林市長に対する要望も多くありましたが、市の取り組みに対する評価もありました。

これまでのタウンミーティングの内容は、小平市のホームページに掲載しています。



本・映画・ドラマの中の 男女共同参画

～小平市男女共同参画センター“ひろく”にある本の紹介～

『やらば、男性政治』

三浦まり 著



「選挙の掲示板には男の人も女の人も貼ってあるのに、なぜTVに写るのは男ばかりなんだ?！」と子どもが言った日思い出す。小学生でも変だと思えることが日本では続いている。なぜそうなのか興味深い数々のデータからわかる本。クオータ制（一定の比率で人数を割り当てる）とまではいかないが、日本では2018年に候補者均等法ができた。私たちが選挙の度に行動を起こせば、政治分野の様子が変わる日が来るにちがいない。

岩波新書
980円＋税

『フェミニズムがひらいた道』

上野千鶴子 著



NHK出版(学びのきほん)
670円＋税

本書は、筆者の「自分のことばと思想は、自分の前を歩く多くの女性たちに深く負っていることを忘れないために、また、あとから続く者たちにバトンを渡すために、フェミニズムの歴史を語る必要がある」との考えから執筆されている。そして、フェミニズムの定義について、「フェミニズムは決して女も男のようにはふるまいたいとか、弱者が強者になりたいという思想ではありません。弱者が弱者のままで尊重されることを求める思想です。」（2019年 東京大学入学式での祝辞）と語る。私たちが目指すべき社会の道しるべとなる一冊である。

『弱者男性 1500万人時代』

トイアンナ 著



小樽商科大学の池田真介教授による推計統計値では、日本で弱者になり得る男性は、最大1500万人も存在している。著者は、ネットスラングから誕生した言葉である「弱者男性」の存在を可視化し、「弱者男性」が求める支援を提案している。女性である著者は、「弱者男性を理解したい、支援したいというだけで、もの好きか変態扱いされるとすれば、それは偏見。」と言っている。支援すべきは、女性の弱者だけでなく、「弱者男性」も、と指摘する本。

扶桑社
920円＋税

『置かれた場所で あべれたい』

潮井エムコ 著



クスツと笑えてサクサクと読めるエッセイ本。高校の授業（クラスの9割は女子）で、この人となら何と添い遂げられる? というパトナーを見つけさせて仮想の子供として生卵を二人で育てさせる家庭科の先生や、元スパイの祖母、娘を山に放り投げる母：一筋縄ではいかない若者を取りまく人間関係が描かれ、知らない誰かの人生の一部を覗き見しているようだ。

朝日新聞出版
1500円＋税

皆さんの声をお寄せください。
以下のメールアドレスや二次元コードなどからお寄せください。



●市民協働・男女参画推進課へメール
danjokyodo-sankaku@city.kodaira.lg.jp

ひろくは ココにあります。

男女共同参画センター“ひろく”、公民館(11館)、図書館(11か所)、地域センター(19館)、大学(6か所)、福祉会館、市民総合体育館、児童館(3館)、市内保育園、幼稚園、健康センター、健康福祉事務センター、市役所、東部・西部出張所、郵便局(17か所)、市内各駅(7か所)、ふれあい下水道館

小川町	手作リクッキーの店 歩、商工会館、JA 東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、和食処 楠	広報紙『ひろく』のバックナンバーはこちら
小川西町	たましん小平支店、小川ホーム	
小川東町	ギャラリー青らんぎ	上水本町 アトリエ・パンセ
学園西町	ビューティーサロンサンローズ、美容室ヘアグラッシュ、ヘアサロンサンライズ、笹間住宅資材、学園接骨院、国際交流協会、しらす鍼灸治療院	
学園東町	日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、リそな銀行小平支店、おだまき工房、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室 Je、とりあん、お化粧のしのざき、Kimamaya T&K、宮鍋園本店	
仲町	小平消防署	鈴木町 leggg Cafe
天神町	ビレッジグリーン	
美園町	カフェラグラス、珈琲の香、POEM (ぼえむ)、永田珈琲、ルネこだいら、子育てサポートきらら、アンデスの家ポリビア	
大沼町	ガスミュージアム	花小金井 公立昭和病院



編集後記

● 今回の特集「こども食堂。こどもたちに食事を提供すると共に、地域交流の場であり、こどもたちが安心して過ごせる場所でもありました。4か所に取材を受けていただき、ご協力ありがとうございました。より多くの方々に読んでいただきたいです。」(YN)

● 今号の特集で、取材に快くご協力いただいたこども食堂の運営者スタッフの皆さん、また取材先の紹介や調整にご協力いただいた社会福祉協議会の担当の方ありがとうございました。そして厳しいスケジュールのなか、取材に執筆に、汗を流して取り組んだ委員の皆さんにも感謝。今年度の実行委員は7人と少なく、一人ひとりの負担も大きくなってしまいました。さまざまな面で解決すべき課題に直面しています。

の建設が予定されていて、この緑や景観もいつまで保存されるかは分かりません。

近頃の夏の強い陽射しも緑陰にさえぎられ、吹き渡る風がとても心地良い場所。木に渡されたハンモックやブランコが用意され、恐る恐るの子にはサポーターがお手伝い。のこぎり引きや穴掘りも、見守ったり手伝ったり。ペーゴマ、こま、シャボン玉、積み木など遊び道具はたくさんあります。多少危険な遊びでも、自らの意思であることを尊重しているようです。



撮影：長塚 秀人

表紙について

今号の表紙は、長年、地域住民の憩いの場として親しまれてきた、小平市中央公園東側の雑木林です。

この雑木林では「NPO法人 こだいら自由遊びの会」による「冒険遊び場」が4月～8月に定期的で開催されています(団体のホームページによると、9月～3月はきつねっぱら公園こどもキャンプ場で、焚き火などをしていようです)。

残念ながら、この雑木林には都市計画道路



人の痛みのわかる 優しい心を育みたい

メンタル心理カウンセラー・女性空手家
～極真空手弐段～ 萩原 あかりさん

取材の日、小学生の娘さんを連れて公民館に現れた萩原さんはラフなカジュアルワンピースを着て晴れやかな笑みをたたえていました。大学生を筆頭に3人のお子さんがいます。

この方が本当に空手家なの？という柔らかな印象でした。けれども、大会風景や稽古時の写真を見せてもらうと、きりつとした隙のない真剣なまなざしや表情に「別人なのでは！」というくらいの驚きを感じました。



萩原さんは兵庫県出身です。縁あって小学校2年生から空手道場に通うこととなりました。良き指導者に恵まれたこともありメキメキと上達。中学校1年生で10人連続組手を見事完遂し極真空手の黒帯を獲得。その後考えることがあり、中学・高校時代には陸上競技に没頭。関西の実業団陸上部に所属し大好きな空手から離れた生活を送った時期もありました。

その間「やりたいと思ったことは今やる」を信条にさまざまなことにチャレンジした萩原さん。

20歳の時、兄の影響で知ったミュージカル劇団が劇団員を募集していることを知り、いきなりオーディションのため関西から上京。空手演武を披露し見事合格。女優としてご活躍されました。劇団活動経験を活かし冠婚葬祭のプロ司会者として、沢山の方の「ありがとう」をもらう仕事に携わります。舞台経験や司会業の経験は空手の試合の際の「緊張感を保ちながらも自分の力を発揮すること」に役立っているそうです。



「空手は自身の人生において特別なもの」だと気づいた16年前。初心に戻り白帯から稽古を始め、数年後には国際大会に型

選手として出場し多数の大会でご活躍。

2022年9月、小平市にて東京北多摩支部の支部長に就任しました。

しばらくの間、学校の体育館などを借りてこどもたちの空手指導に当たっていましたが、今年2024年4月に念願の常設道場を小平市上水南町近くで始めることが叶いました。

通常の【小学生クラス】の他に【親子クラス】【女性クラス】【ベビーママ空手教室】【お父さんクラス】等…色んな世代の方に空手の楽しさを伝える指導に取り組まれています。稽古や合宿などで親御さんが積極的に参加してくれることでこどもたちの頑張りにも共感してもらえることもこの教室の自慢。

いじめられても「やめて」と言えなかった子が勇気をもって言えるようになったり、不登校になっていた子が空手の稽古でリーダーシップを発揮できるようになったそうです。

また大人からも「姿勢が良くなり腰痛が軽減した」「ストレス解消に繋がり、家族に優しくなれる」などなど喜びの報告が毎日届くことがやりがいなのだそうです。



「これからも、極真空手という武道を通して心身を鍛えながらメンタルを整えられるよう、また1人ひとりの自己肯定感上がるように、個性に寄り添った指導を心がけ、青少年の健全な育成のお手伝いをしていけたら嬉しい」と笑顔で語りました。



令和6年度 男女共同参画週間講演会

<男らしさ>とジェンダー規範 — 男性の性の歴史から

令和6(2024)年6月29日(土) 小平市福祉会館 小ホール

講師 澁谷 知美さん 東京経済大学教授



講師の澁谷さんは、ジェンダーおよび男性のセクシュアリティの歴史を研究しています。(著書『日本の童貞』(河出文庫)ほか)。本講演では、1920年代頃から現代までの「童貞」に関する考えの変遷について話されました。その間「童貞」の肯定と否定の間でゆらぎはあったものの、どちらの立場を取るにせよ、男性＝性的主体という考えが根深く、それが「いじり」や「からかい」につながりやすいことを指摘されました。男女問わず、個人個人が自らの言動を振り返り行動を変える必要性について語られ、「けなし合いから助け合いへ」としめくられました。

ひらく

第55号
令和6(2024)年
10月発行

発行/小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9575
✉ danjokyodo-sankaku@city.kodaira.lg.jp

企画・編集/小平市男女共同参画推進実行委員会

伊藤 純子 高橋 雅子 谷原 裕子
中條 洋子 中村 幸世 保坂 博子
宮川 和之

小平市男女共同参画センター「ひらく」

〒187-0031 小平市小川東町4-2-1
小平元気村おがわ東 2階

042-348-2112 (電話受付時間
午前9時30分～午後5時)

西武有楽町線・西武多摩湖線 萩山駅南口より徒歩5分
※駐車場に限りがありますので、車での来館はご遠慮ください

- 開館時間 午前9時～午後10時
- 休館日 火曜日・年末年始・奇数月の第2日曜日
- 利用対象者 どなたでも(利用登録団体は予約可)
- 問合せ先 地域振興部市民協働・男女参画推進課
042-346-9618

